

# Kandai Style

2019.10 Vol.477  
関西大学通信

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



# KANDAI for SDGs

# KANDAI for SDGs

10月号ではSDGsを特集。関西大学では、2018年12月に学長の下に「KANDAI for SDGs推進プロジェクト」を設置し、これまで本学に受け継がれてきた知と精神を持って、SDGsとしてみとめられた世界規模の理念・目標に取り組んでいます。

## 1 SDGsの17ゴール

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

※外務省ウェブサイトより

## 2 SDGsと関西大学のミッション

母なる地球を意識し、豊かさを追求できる「考動力」溢れる学生を育成

国際連合による「われわれの世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、「誰一人取り残さない社会」を目指す (No one will be left behind) という共通の理念が提示され、その実現に向けて、SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標) が策定されています。この理念の下、すべての国とすべてのステークホルダーが、協働的なパートナーシップの下、SDGsに取り組んでいます。

国際社会のパートナーの一つである関西大学は、この理念に基づいた研究・教育・社会貢献の展開、そして組織運営を通じて行動していきます。

SDGsのキーワードは、人間、地球、豊かさ、平和、パートナーシップという5つのP (People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership) です。関西大学は、自分1人のためだけでなく人類全体に思いを寄せ、母なる地球を意識しながら、豊かさを追求できる考動力溢れる学生を育成します。そして、一人ひとりが自由で、世界のあらゆる人々、組織、国とつながって、社会をより良くできる革新力と、国際社会のパートナーシップにより、平和を希求していく強い意志を持つ人材を社会に送り出したいと考えています。

※SDGsに関する関西大学の行動指針は、近日、大学ウェブサイト等で公開予定です。

## 4 環境保全への取り組み例

関西大学は、地球環境に調和した人間的豊かさの実現のため、「関西大学環境方針」の下に、学園全体でサステイナブル・ユニバーシティを目指した環境保全活動を実施しています。

### 受動喫煙防止



### 地下水・雨水利用システム



ろ過・滅菌処理済みの地下水の利用

### KUエコロール



「キャンパス内の不要紙」による再生紙トイレトイレットペーパーの導入

### 太陽光発電システム



太陽電池モジュールパネルによる発電電力でCO<sub>2</sub>排出量削減

### 風力発電システム



低風速で効率よく発電する小型垂直軸風車を導入

### ガスコージェネレーション



発電機の廃熱利用で、エネルギー消費量とCO<sub>2</sub>削減を図る

### ECOディスプレイ



エコの啓蒙に貢献

### 屋上庭園「桜の園」



豊かな緑環境の創出で、リラクゼーションとエコを実現

### ダンボールダクト



エコロジーな空調ダクトで資源循環に配慮

### 照明設備の省エネ対策



### 断熱ガラス



Low-Eで複層ガラス採用で熱と紫外線をカット

### 教職員によるクールビズ・ウォームビズ



### 省エネシール貼付け



## 3 教育・研究の取り組み例

### 環境教育の取り組み

共通教養科目に「環境学入門」を設置。環境問題の解決に向けたさまざまなアプローチの理解を目指し、法学、経済学、社会学、経営学、倫理学からそれぞれの専門家を招き、オムニバス形式で授業を展開しています。

### 社会連携部の取り組み

研究・技術シーズ集において各シーズに対応するゴールを明記。新たな視点の提供により、研究成果、知的財産の検索や外部とのマッチングの向上を図ります。

### 多様な学生の受け入れに関する取り組み

国連難民高等弁務官事務所、国連UNHCR協会と協定を締結。国際社会において平和の構築や社会の発展に寄与する人材の育成を目的にパートナー大学としてUNHCR難民高等教育プログラム (RHEP) に参加し、難民または難民と類似の地位が認められている学生を受け入れています。

### 経済学部・後藤健太教授の取り組み

地方創生のためのSDGsの実務化に向けた政策提言プロジェクトを運営

SKIMA Project (Soo-City Kansai University Integrated Mayonnaise Project)

ゼミの学生は、鹿児島県曾於市の企業や農業従事者等の聞き取り調査や住民アンケートを通して、経済学の観点から雇用創出や地場産業振興への政策提言づくりに取り組み、プロジェクト報告会で披露しています。



これまで、曾於市の強みを生かしながら、他分野に補完的な優位を持つ周辺経済圏 (志布志市・都城市) との有機連携を通じた競争力の向上策や、域内産業の環境・社会・ガバナンス (ESG) 対応を測定・分析するツールを用いた持続可能なビジネス戦略の提言などを実施。学生が主体的に考動し、先輩・後輩のつながりを大事にすることで、一貫性と継続性を発揮しています。

### 社会学部・草郷孝好教授の取り組み

一人ひとりの暮らしと多様な生き方を大切にする持続的社會を目指す

共生の開発学とブータンとの協働活動

草郷孝好教授は共生の開発学を掲げ、SDGsの求める「誰一人取り残さない持続する社会」への変革の理論や実践を探っています。ブータン王国は、GNH (国民総幸福) を提唱、GNP (国民総生産) に代わるGNH指標の開発や政策を推進し、国際的な注目を集めています。そこで、ブータン政府、大学、NPOと協働し、持続的な地域社会実現のカギを探る若者の調査研究やブータン人学生と関大生が共に学び合う国際共修プログラムに取り組んでいます。



### 商学部・長谷川伸准教授の取り組み

「基礎演習」授業の一環としてカードゲーム「2030SDGs」を通じてSDGsの理解を深める

長谷川伸准教授により、「基礎演習」授業の一環として2018年度からカードゲーム「2030SDGs」を取り入れ、SDGsの理解を深めています。

今年度も担当ゼミや「基礎演習」合同クラスなどで実施。また、2019年2月には社会学部・草郷孝好教授とブータン王国で行った「持続的コミュニケーション創生国際共修プログラム」の場でも、英語版SDGsカードゲームを実施しました。



「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか?」「生活や世界を良くするために何ができるのか?」。ゲームを通してSDGsを理解し、SDGs達成に向けた学生の活躍が期待されます。

### 人間健康学部 SDGsラーニングラボの取り組み

世界遺産である熊野の自然や文化を生かした体験プログラムを開発・提供するための拠点



人間健康学部が開設以来進めてきた堺市、和歌山県田辺市との地域連携をベースに、世界文化遺産に登録された熊野にSDGsの学び・研究の場としてオープンプラットフォームの拠点をつくり、さまざまな年齢や文化的背景にある人々がこれからの人や社会のあり方について学べる新たな環境教育プログラムを開発します。

# SDGsを知ろう!

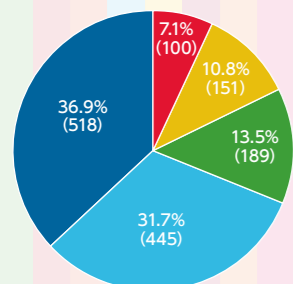


## Q5 SDGsに関する意識調査アンケート

アンケート期間: 2019年4月24日~5月31日 対象者: 学生・教職員  
回答者数: 1,403人 (学部生: 1,218人、大学院生: 9人、教育職員: 107人、事務職員: 69人)

SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)の認知度の把握と向上を目的として、アンケートを実施しました。

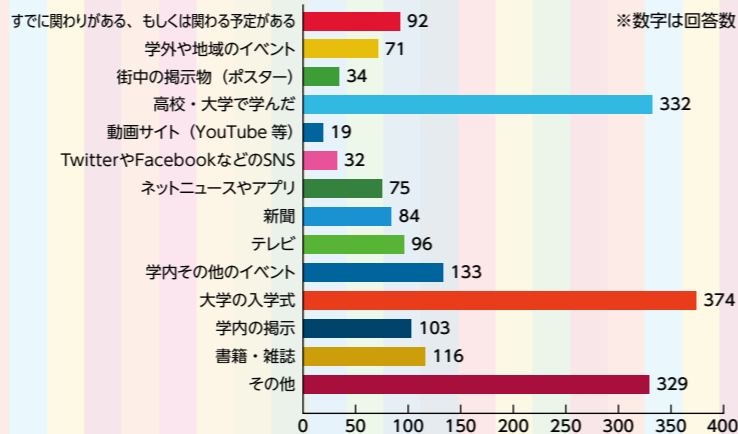
### Q1 SDGsについてどの程度ご存じですか。



※( )は人数

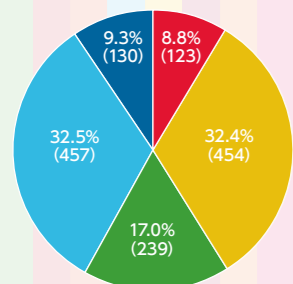
- 169のターゲットから構成されるということまで知っている
- 2030年までに達成すべき17のゴールがあるということを知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある、意味も知っている
- SDGsという言葉聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがあるが、意味は知らない
- 存在を知らない

### Q2 SDGsについてどこで知りましたか。(複数回答可)



※数字は回答数

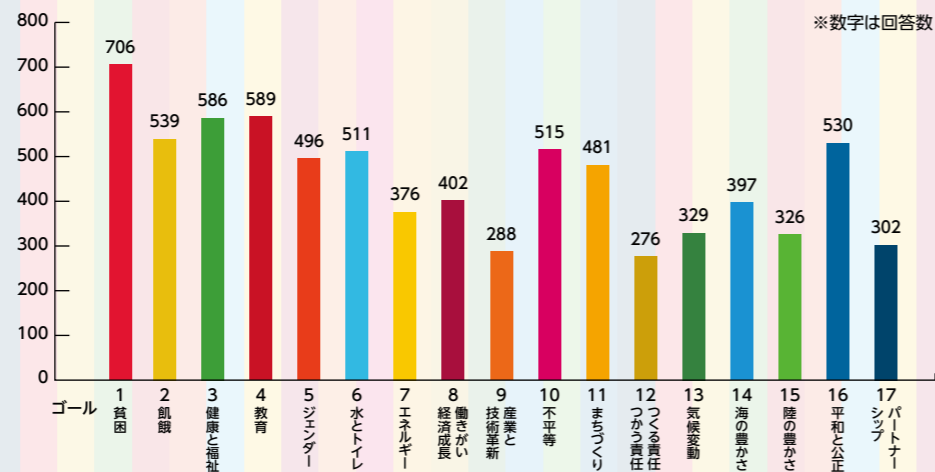
### Q3 SDGsについてどの程度関心がありますか。



※( )は人数

- 非常に関心がある
- 関心がある
- わからない
- あまり関心がない
- 全く関心がない

### Q4 あなたはSDGsのどのゴールに関心がありますか。(複数回答可)



※数字は回答数



## Q6 「関西大学SDGsフォーラム」を実施

6月22日に関西大学SDGsフォーラムを実施しました。  
800人を超える参加者(学生・教職員・一般)が、「SDGsとは何か?」を考えました。

講演 「SDGsビジネスで未来をつくる」 阪口 竜也氏(フロムファースト(株)代表取締役)

パネルディスカッション

阪口 竜也氏、草郷 孝好教授(社会学部)、村川 治彦教授(人間健康学部)、権 南希教授(政策創造学部)  
三宅 沙也加さん(文学部4年次生)、藤本 帆香さん(政策創造学部3年次生)



### 参加者の意見・感想

大阪万博があるように関西が世界中から注目される時がすぐに来るため、関西の大学のどこよりも率先してSDGsに関する何か大きなプロジェクトを立ち上げるべき。そして世界中に日本のSDGsの取り組み方を示せるようになってほしいと思います。

SDGsという言葉「聞いたことのある」という状態から「少し知識のある」状態にすることができて、とてもためになるフォーラムでした。自分にできることは何かを考えて、まず行動することが大切だと感じました。

本質は、幸せへの行動なんだと深く感じました。SDGsライフが格好良く見えるような世界、善の行為を競い合う「善の競争」の時代にしていきたいと思いました。

17の目標がそれぞれ別々のものではなく、つながりとして捉えなければいけないという自分の中で新しい考え方を得ることができました。

SDGsが世界的にビジネスと結びついていることを知り驚きました。自分自身今後もっと関わるが増えると思うのでもっと学びたいと思いました。

SDGsについて曖昧だった知識が無くなり、理解と関心が深まったので、SDGsについてできるだけ学生のうちから活動していきたいと思いました。

SDGsは、自分にとって身近なものだと思いました。将来、SDGsに関連した取り組みができるよう今から考えたいと思います。

SDGsを改めて深く理解することができて、環境のために行動しようという意識が高まりました。



## Q7 今後のSDGs関連行事予定

関西大学では、SDGs達成に向けたさまざまな取り組みやイベントを実施しています。  
詳細は、KANDAIForSDGs推進プロジェクトのウェブサイトをご確認ください。

KANDAIForSDGs  
推進プロジェクト  
ウェブサイト



9月21日(土)~2020年1月30日(木) 図書館SDGs関連図書企画展示 ● KANDAIForSDGs推進プロジェクトに参画している教員の選書を中心に、17の目標への到達のヒントとなるような図書を幅広く展示。また、分館では、学部の特性と目標をリンクさせた図書を展示予定。		
9月28日(土)~10月17日(木) 地球温暖化防止に向けた取り組み「すいたクールアースウィーク」コラボレーションブースの設置 (※日程・内容は変更になる可能性があります) ● 総合図書館では、「すいたクールアースウィーク(主催:アジェンダ21すいた)」とコラボレーションしたブースを設置し、後藤圭二吹田市長による推薦図書の展示等を行います。		
10月21日(月)~11月3日(日・祝) 教員推薦図書の書店展示 ● 紀伊國屋書店天王寺ミオ店にて、本学教員推薦図書の紹介ブースを設置。	11月16日(土)~12月6日(金) 図書館SDGsパネル展「パートナーシップでつくる私たちの世界」 ● SDGsとわれわれの生活のつながりについて理解できるよう24枚のパネルを展示。	
11月9日(土) SDGs公開講座 ● 大阪府立大学・大阪市立大学・関西大学連携事業(国連広報センター 根本かおる氏)	11月28日(木) 図書館SDGs講演会 ● (国連広報センター 千葉潔氏)	11月22日(金)、29日(金) 秋季人権啓発行事 ● 難民をテーマにした映画作品の上映と講演を予定。



### PROFESSOR'S COMMENTS

副学長 奥和義教授(政策創造学部)

SDGsをどの程度知っているかとの質問に、回答者の約37%が「存在を知らない」と答え、「言葉やロゴを見聞きしたことはあるが、意味を知らない」と答えた約32%をそれに加えると、「知らない」が全体の7割近くになり、「知っている」は3割強にとどまります。民間の調査によれば一般の認知度は2割程度のため、それよりは良いと言えるかもしれま

せんが、関西大学の教職員・学生を対象にした調査であることを考えれば、認知度は低いでしょう。

次にどこで知ったかは、「大学の入学式」が最も多く、学長がスピーチで触れた意味は大きいと考えられます。「高校・大学で学んだ」がそれに続き、SDGsの理解を深めるためには、大学教育の重みが示唆されます。また、関心の有無についてはほぼ拮抗状態。「関心がある」が少なくとも過半数を超えるように、粘り強く情報発信を続けていく必要があるでしょう。

さらに、17のゴールのうち、「貧困」(ゴール1)、「健康と福祉」(ゴール3)、「教育」(ゴール4)など、分かりやすいゴールに関心が高く、「産業と技術革新の基盤をつくる」(ゴール9)や「つくる責任つかう責任」(ゴール12)など一般になじみの薄いゴールに関心が低く、理念とゴール、ゴールの間のつながりなどを分かりやすく説明していく必要があります。現時点では認知度は十分でなく、SDGsに掲げられた高い理念に基づき、大学としての具体的な活動を実現して、大学のステークホルダー全体の意識変革に向けた取り組みを工夫していくことが望まれます。

### 次号のテーマは…「食品ロス問題を考える」

日本における食品ロスは年間643万tとされています。学内飲食店や学生自身の取り組みを紹介し、食品ロスについて考えます。



サービス業／地域再生



一般社団法人kumano.co 理事

## 川端 佑典さん

金光八尾高等学校出身  
2018年人間健康学部卒業

住民の熱意に触れて、新しい生き方を発見！  
地域の課題を解決し、持続可能なコミュニティづくりを目指します。

川端佑典さんは人間健康学部出身の卒業生3人と共に、和歌山県田辺市本宮町で一般社団法人kumano.coを創業し、理事を務めています。法人名は熊野と仲間(co)を意味し、「自分らしく生きることができるコミュニティづくり」を目的としています。メイン事業の「くまのこ食堂」は古民家を改装したカフェで、地元の新鮮な食材を使った料理を提供し、昼はカフェ、夜は居酒屋として営業しています。

大学時代のゼミ活動の一環で、関西大学と堺市が共同で行う地域連携事業「熊野本宮子どもエコ☆ツアー」に参加。堺市の小学生を本宮町に引率して自然体験キャンプを開催するにあたり、下見やプログラム調整などで何度も現地を訪問しました。地域住民と交流を図るうちにつながりが強くなり、町を盛り上げたいという姿勢に触発されて、2017年に移住と起業を決意します。

事業の旗振り役は、同じ学部の先輩で、代表理事を務める森岡雅勝さんです。2人で事業内容を検討する際に、地域が抱える課題を取り上げ、着目したのが、熊野古道が世界遺産に登録されてから外国人観光客が増えているのに、「晩ご飯を食べるお店がない」ということでした。そこから「くまのこ食堂」を発想しました。「短期間で会社を立ち上げ、カフェを開店したことは、苦しくも楽しい経験でしたが、世の中から求められていること、自分たちがやりたいことの兼ね合いが難しかったのが実感です」と言う川端さん。しかし、ある日の夜、暗い山道を歩いてきた香港からの旅行客が店の明かりを見て、「この町の灯台だと思った」と言ってくれた時は感動したそうです。

現在の町の課題は、労働人口不足です。現在は、ヨガインストラクターや和紙作り、自然を生かしたアクティビティや近隣3県のツアーガイドなど、外国人観光客を対象とした体験事業で起業したい人材を募集しています。今後は熊野の文化等を生かした体験プログラムの開発・提供などを行う「関西大学SDGsラーニングラボ」とも連携し、「大学生受け入れのツアーコーディネート事業」や「地域資源の情報提供事業」など、熊野の文化的価値をビジネスにつなげていく事業を展開する予定です。

学生時代からIT系のベンチャー企業で仕事をするなど、さまざまなことに挑戦してきた川端さんは、「自分のいる世界から飛び出して知らない世界に飛び込んでほしい。挑戦することで、ものの見方が変わってきます」とアドバイスをくれました。

ある1日のスケジュール

10:30	出社 清掃、食材の仕込みなど
11:00	「くまのこ食堂」開店 ランチ営業
15:00	昼休憩、事務作業、 メールチェックなど
16:00	カフェ営業
17:00	ディナー営業
21:00	閉店



必須アイテムは、パソコン、包丁以外に、人と会うため、仕入れのために必要な車(鍵)、そして飲食店ですぐに使うことができるApple Watch

# Community Promoter

# VIVA!!

# 学び易



環境都市工学部 建築学科

## 「特別研究1(建築基礎工学研究室)」

### 池永 昌容 准教授

## 打倒！南海トラフ地震。 どんな規模の地震にも対応できるダンパー開発を目指して。

### 失敗を恐れず、挑戦的な研究姿勢を身に付ける。

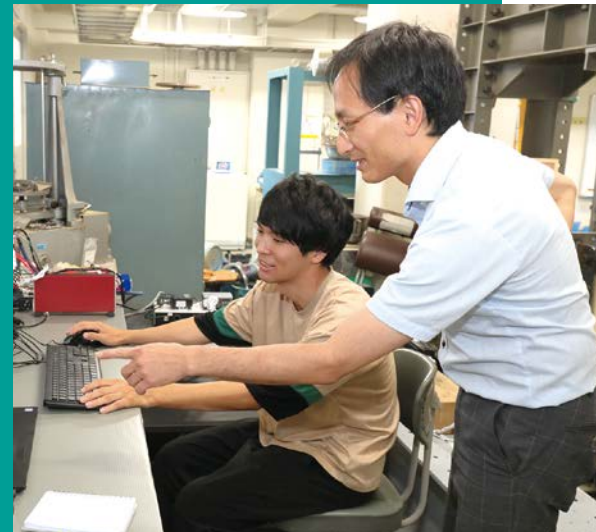
池永昌容准教授の建築基礎工学研究室では、地震の振動による建物の被害の抑制・予防を目的とした、高度な制振構造を持つダンパーの研究・開発を行っています。ダンパーとは、建物に伝わる地震動を低減・減衰させる制振装置で、超高層マンションや免震住宅などの構造物に導入されています。

従来の制振構造では、シンプルな機構のダンパーが採用されているため、設計で想定している地震に対しては有効ですが、東日本大震災や南海トラフ地震のような極大地震などの想定していない地震では、性能を十分に発揮できない可能性があります。そこで、池永准教授の研究室では、地震動の規模や特性ごとに異なる建物の応答変位(動き方)を把握し、その特性に応じて性能が切り替わり、どんな地震にもフレキシブルに対応できる「スマートパッシブダンパー」の研究を企業と共同で進めています。研究室では、あえて実験装置を一から学生に製作させることで、他分野の知識にも触れ、多様な学びを推奨しています。

「特別研究1」では、資料の収集から検討・実験・解析・調査準備までを行い、研究の概略を人に説明できるレベルを目標に取り組み、「特別研究2」では、その基礎知識をベースに専門性を高めます。「どの研究段階でも重視しているのは、理論的に考えること」と池永准教授は言います。

学部生6人、大学院生2人の研究室では、学生の個性に合わせて研究テーマと方向性だけを示し、あとは自分で考えて経験値を積んでもらいます。「自分で目標とスケジュールを決めて実験を進め、人に説明して理解してもらう。この一連の流れを独力で取り組んだ経験は、社会人になっても役に立つでしょう。研究で失敗することは全く構いませんが、失敗から学び取れないことが本当の失敗と考えています」と池永准教授。

最後に「研究目標を達成することだけが目的ではなく、視野を広げ、研究過程で学んだことを自分の人生にも応用してください。自由な研究が関西大学の特長。この環境を活用し、小さくまともらず、世界に飛び出してほしいですね」とアドバイスをくれました。



ほきもと  
浦木元大海さん(理工学研究科M1)

スケールの大きな地震にどう打ち勝つか、耐震構造や地震対策に興味がありました。新たな設備で良い結果が出た時は達成感を感じます。解析では原因を追及する習慣が身に付きました。自分の自由な発想を試してみたい学生に最適な研究室です。



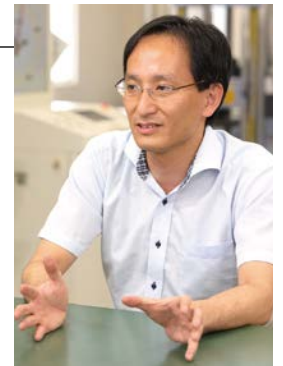
田中湧生さん(理工学研究科M2)

耐震工学を学ぶことができ、解析だけでなく実験もできるこの研究室を希望しました。建築分野に限らず、機械工学など他の分野の知識も習得することもできました。就職先のゼネコンでは、研究室での学びを生かし、構造設計に携わる予定です。



池永昌容 准教授

挑戦することに意味があると考えているため、時間がかかってしまうことや失敗に対しては寛容的で、やらなかったことに対しては厳しく指導します。間違った方向に進んでしまったとしても、私や先輩が軌道修正をしますので、自分の“やる気”を突き進めてください。



# 近づく第42回統一学園祭 意外史をたどります

今年で42回目の関西大学統一学園祭が近づいてきました。昨年、4日間の入場者数が10万人の大会を超えました。学園祭の第1回は1926(大正15)年です。昭和初期の記録を見ると、命名時に「祭の文字を入れるのはどうか」という議論が起きたり、数万人の市民が詰め掛け、貴重品だった時計の落し物が目立ったりしたそうです。学園祭の意外史をたどりました。

## きっかけは東洋一の大運動場

1926(大正15)年に学園祭が始まったのは、その年の8月に完成した大運動場と関係があります。運動場は南北100mの直線コースをもつ400mトラック、野球、ラグビー、サッカーの施設を併設した3万3,000㎡の広さで、東洋一の総合グラウンドと言われました。この2カ月後、グラウンドを見下ろせる巨大なクラブハウスも完成し、運動場の竣工式では創立40周年記念も兼ねた式典が行われ、同時に初の大学祭も行われました。この間の事情は当時の機関誌からうかがえます。

## 知名度は低かった?

『関西大学学報』229号(1948年12月)に、「大学祭の今昔を語る」と題した座談会が掲載されています。この中で当時の理事長・宮島綱男氏が「当時関西大学はあまり知られておらず、卒業生も関大卒業ということをはばかっていた」状態だったと話していました。今だと想像できない知名度の低さですが、だからこそ「東洋一といわれたアメリカ式グラウンドもできたし、この際、学校宣伝のために大学祭を」という発想になったのでしょう。各界の名士も含め3万人を呼んだそうです。その頃はまだ高価だった時計の落とし物が目立ったと言います。大学祭の名称について「祭とは神様に関したことはないか」との疑問も出ましたが、「アメリカの大学でいうフェスティバルだ」ということで落ち着きました。



万国旗がはためく千里山キャンパスの第2回大学祭に詰め掛ける市民たち

## 弁論部がミナミでビラ配り

当時から学生の行動力、サービス精神は旺盛で、各駅のターミナルでビラを配ったりしながら宣伝に努めたり、弁論部が大阪・ミナミの心斎橋まで繰り出してビラをまいたり、新聞部が大学祭の号外を街頭で配って宣伝したりしたという話も残っています。これにはお手本があり、それは慶應義塾大学でした。「トラックに校旗を押し立て、学生のブラスバンドが華やかに宣伝した」という事例が紹介され、「関大でも音楽部が大衆を引きつけることが望ましい」との意見が出たほどです。



2019年5月、高槻キャンパスのイベントで仲間たちと塩川さん(前列右から3人目)

## 今年の抱負

ところで今年の統一学園祭の実行委員長、塩川啓矢さん(社会学部3年次生)に今回の抱負を聞きました。往時のサービス精神は今も生きています。

「毎年4日間の学園祭には多くの人たちに来てもらっていますが、昨年は初めて入場者数が10万人を突破しました。約750人いる学園祭実行委員の努力と工夫が実った結果ですが、アンケート調査では厳しいご意見もいただいています。お客さんに笑顔で帰ってもらうことを目標にがんばります」



環境都市工学部 3年次生

# 仲田 充孝さん

やっぱり写真が一番好き。写真を通じて多くの人とつながりたい。

フォトグラファーとして活動する仲田充孝さんがカメラを始めたきっかけは、高校2年の時、友人の松尾陸さんに勧められたことでした。松尾さんもカメラを趣味にしており、仲田さんが修学旅行で撮影した写真を見て「本格的に撮ってみたい」と言ってくれたのです。当初は小型のデジタルカメラで撮影していましたが、大学入学を機に一眼レフを購入。憧れのフォトグラファーが撮影した風景写真に魅せられ、山の景色を撮影したいと体育会ワンダーフォーゲル部に入部して、さまざまな風景写真を撮影していました。この時期は、山の素晴らしさをみんなに知ってほしいという思いが強かったそうです。

しかし、スランプに陥り、有名フォトグラファーたちの写真の迫りに圧倒され、「自分に写真撮影は向いていない」とカメラを手放そうとしたほど落ち込みました。そんな時、カメラを勧めてくれた松尾さんが、企業のイベント用プロモーションビデオを撮影する仕事に誘ってくれました。撮影のアシスタント業務を経験したことで、写真を撮ることと仕事をする楽しさを知ったのです。それからますます写真の勉強に力が入りました。

そして、松尾さんが声を掛けてくれたもう一つの理由が、仲田さんが憧れるフォトグラファーの北村渉さんと引き合わせるためでした。北村さんには「知らないところでベストショットが撮れていることもあるから、気軽にたくさん撮るのが良い」と教わりました。構図を決めてから撮影していた仲田さんにとって、考え方が変わるアドバイスでした。北村さんと交流する中で少しずつ自信が付き、写真への情熱が強くなったそうです。

その後、北村さんの影響を受け、人物写真を撮りたいと思うようになり、2年次に自己表現をする人が多数在籍していると感じたダンスサークルに転部します。人物の撮影は被写体と背景のバランスや構図力など、風景撮影より高度な技術が必要だと痛感。そんな仲田さんの撮影テーマは「ライフスタイルとchill&off」。日常生活の中で、人がリラックスして自然体でいられるような緩やかな感じ。そのため、テーマと趣向が異なる依頼は断ることもあったのだとか。現在は学内外の女性ダンサーの宣材写真を撮影しています。尊敬するフォトグラファーに作品を褒められた時は、やりがいを感じると言う仲田さん。現在は学業の合間を縫って、企業に宣材写真撮影の営業メールを送っています。料金の代わりに、撮影した写真を企業が自社のウェブサイトなどに掲載する場合は、仲田さんのクレジットを入れてもらえるように依頼しています。実績を作り、作品を多くの人に知ってほしいからです。

「これからは写真を通じて人脈を広げるとともに、技術も磨き、将来はフォトグラファーの仕事で生計が立てられるようになりたいです」と抱負を語ってくれました。



仲田さんが撮影した作品  
「Osaka Sunset」

今回は、仲田さんからのご紹介で井内 梨稀さん(社会学部2年次生)が登場。お楽しみに!

# Mitsunori Nakata

# 学部・研究科ピックアップ

## 法学部／法学研究科

### 有権者として学ぶ

私は、租税法を講義していますが、この10月に消費税の税率が上がります。EU諸国の付加価値税の税率がずいぶん高いことから、日本でも今後税率がさらに上げられるとの観測もあるのですが、将来どれだけの税率となるのかは現時点で分かりません。

しかし、民主主義である以上、今の若い世代の意見が反映されて決まることになりすから、国の進路を判断できるようになるためにも、今学期に取り組む意味は大きいと考えます。

(学部学生相談主事 浦東久男教授)

## 政策創造学部／ガバナンス研究科

### 専門演習の募集と選考

政策創造学部では、3年次以降のゼミである専門演習の募集と選考が10月から年内にかけて行われます。履修要項やゼミ紹介を参考にし積極的に申し込んでください。

専門演習では、担当教員による専門性の高い指導を2年間受けながら、学習成果を卒業論文やゼミ論文の作成につなげていきます。また、より研究関心の近い仲間たちとゼミ活動やさまざまな課外活動を行う中で親睦を深めることもできます。ゼミへの参加を通じて一層有意義な学生生活にしてください。

(教学主任 梶原晶准教授)

## 文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

### 学術講演会を開催しました

文学部では6月22日に探検家の岡村隆氏を講師に招き、学術講演会を開催しました。講演会ではスリランカを中心とする岡村氏の50年にわたる遺跡調査や、発見した遺跡の意義などを探検時の映像を交えながら話してもらいました。

在学生、卒業生、一般の方々など多くの皆さんが参加され、グローバル化の進んだ現在も「未知」の場所が世界各地にあることに対して参加者一同驚くとともに、講演後の質疑ではその活動や成果について活発な議論も行われました。

(松井幸一准教授)

## 外国語学部／外国語教育学研究科

### 中国語スピーチコンテスト大会を開催！

2019年は、日中両国政府が「日中青少年交流推進年」に指定した年です。日中の青年の相互理解と友好交流を促進し、日本の大学における中国語教育の発展に寄与するとの趣旨に基づき、10月27日(日)関西大学にて「中国語スピーチコンテスト」を開催することになりました。

このスピーチコンテストは、日本中国語検定協会と関西大学外国語学部中国語教員が企画するもので、大学生の中国語力を競い合う舞台を提供します。皆さんのご参加をお待ちしています。

(沈国威教授)

## 経済学部／経済学研究科

### 新学期を迎えた皆さんへ

長い夏休みを経て、秋学期が始まりました。1年次生は大学生活にも慣れてきたところかと思いますが、今学期からは専門科目の難易度も高くなりますので、ここで改めて気持ちを引き締めましょう。続いて2、3年次生は、ゼミ活動が活発になると思います。ゼミの仲間と課題に真剣に向き合ってみてください。そして4年次生はいよいよ卒業論文の提出です。4年間の研究の集大成としてしっかり取り組んでください。皆さんにとって、実り多い秋学期になることを期待しています。がんばってください。

(学部長 野坂博南教授)

## 人間健康学部／人間健康研究科

### 大学スポーツの将来を展望する

昨今、日本ではスポーツ・メガイベントが次々と開催され、なにかと話題ににぎやかです。大学スポーツの世界でも今年3月から大学スポーツ協会(UNIVAS)という組織が発足しました。これは、米国のNCAAや英国のBUCSを参考に、競技の枠を超え、総合的に大学スポーツの発展を目指すものです。

今は発足直後で、その実態はまだ未知数ですが、個人的には、将来、学生が選手としてだけでなく、運営管理の側でも活躍し、スポーツを通じて、さまざまな能力を育てられる場となることを期待しています。

(西山哲郎教授)

## 各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 商学部／商学研究科

### 「会計」に強い商学部生を目指して

公認会計士受験支援委員会は、商学部生に対し、日商簿記検定や公認会計士試験に合格できるように、さまざまな支援を行っています。

例えば、秋学期に大原簿記専門学校の協力を得て「簿記コンテスト」を実施しています。教育後援会、校友会からの支援を受け、成績上位者に対して表彰・奨励金を授与しており、その中から毎年公認会計士試験合格者を多く輩出しています。2018年公認会計士試験では、商学部からは、3年次生1人、4年次生6人、5人の卒業生、合計12人が見事合格しました。

(岩崎拓也准教授)

## 社会学部／社会学研究科

### 本を持って街へ出る夏休み

社会学部では、多くのゼミが夏休みを利用して国内外のさまざまな場所を訪れ、調査や取材を行います。調査で集めたデータは、秋学期のゼミで分析の材料となり、授業内や他大学との合同ゼミなどで発表されます。また、調査の間には仲間たちと語り合い、交友を深める機会にもなっています。

今年度の私のゼミは大学の地域連携活動として、人口減少を経て近年若い世代の流入を促す政策を進めてきた奈良県川上村で、古くからの住民と新来の居住者が関わり合う新たな暮らし方について調査を行う予定です。

(教学主任 酒井千絵教授)

## 総合情報学部／総合情報学研究科

### イノベーション・ジャパン2019へのブース出展

8月、イノベーション・ジャパンが東京ビッグサイトにて開催されました。研究成果の社会還元と産学連携を目的に実施される国内最大級のイベントで、総合情報学部からは「布製タッチパネルを搭載したウェアラブルインタフェース」(松下光範研究室)と「聴覚に学ぶ! 有毛細胞共鳴が生み出す究極の音響スペクトラム検出機構」(堀井康史研究室)の2件が採択されました。展示ブースを構えての研究発表。成果の実用化や事業化を行うための個別相談も盛況で、今後の展開が楽しみです。

(学部学生相談主事 堀井康史教授)

## 社会安全学部／社会安全研究科

### Sustainable Growthのための安全・安心

米国、中国、韓国、タイ、台湾の専門家を招待し、「International Symposium on Disaster Risk Reduction Strategy for Sustainable Growth」を、9月13日 関西大学高槻ミューズキャンパスで開催しました。多様化・複雑化する国際社会の中で「安全・安心」は世界が共有できる共通の価値であり、それをいかに高めていけるか話し合われました。各国から招いた学生と本学部の学生も議論に参加しました。

詳細は学部ウェブサイトをご覧ください。  
(学生主任 奥村与志弘准教授)

## 専門職大学院トピックス

### 臨床心理専門職大学院

#### 時代に求められる心理専門職

心理専門職の分野では本年、日本初の国家資格である「公認心理師」が誕生しています。

さまざまな問題が相次ぐ中で、国は国民の心の健康の保持増進を図ることを目的に資格法を整備しました。ここでは公認心理師の業務と役割などを明らかにし、国民からの負託に確実に応えられる心理専門職をうたっています。われわれはもとより強い意識を持って悩みを持つ方などへの心理的サポートに当たってきましたが、このような背景を受けさらに心理専門職の社会的ニーズと使命は広がりが深みを帯びてくると思います。

修了生、在学生の皆さん、お互いに切磋琢磨してより一層、社会の期待に応えられるようがんばっていきましょう。(専攻長 岡田弘司教授)

## 併設校トピックス

### 関西大学高等部

#### 16の企業・団体が集結!

高等部2年生のプロジェクトゼミにおいて、グローバルな社会問題を背景とした個人研究課題を発見することを目的として、「関大高等部SDGsフォーラム」を開催しました。



SDGs17のアイコンを掲げる生徒たち

16の企業や団体が梅田キャンパスに集結し、国連が提唱するSDGsの17の目標ごとに、本校の生徒とディスカッションを行いました。生徒たちは、各企業や団体が取り組んでいるSDGsの活動に耳を傾け、2030年の目標達成に向けた活発なディスカッションが行われました。

(研究開発部 松村湖生主任)

## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

### グローバルな活動

皆さんの夏休みはいかがでしたか。理工系学部の夏休みは、国際色豊かでした。

8月7日から9日の3日間、タイ王国のチュラロンコン大学にて第14回理工学国際シンポジウムが開催され、理工系3学部から多くの教員や学生が参加しました。研究発表を通じてアジア各国の大学との研究交流を深めました。

夏休み期間中を利用した海外体験研修プログラムも実施されました。システム理工学部電気電子情報工学科の台湾の中原大学でのグローバル人材育成プログラムでは、現地の大学生らとチームを組んで電気電子情報に関するプロ

ジェクトに取り組みました。化学生命工学部化学・物質工学科のプログラムでは、10日間、タイ王国キングモンクット工科大学トンブリ校を訪れました。英語力を身に付けるためだけでなく現地の学生と異文化交流し、グローバルな視点の大切さを学んだことと思います。



タイでの国際シンポジウムに参加した皆さん

### 学習支援室

理工系学部では、1、2年次生で履修する理系科目(数学・物理学・化学・生物学)の基礎学力の向上を目的として、授業の復習、課題、勉強方法などに関する質問に対応する学習支援室を開設しています。予約は不要ですので気軽にご利用ください。質問の際には、単に解答を求めだけでなく、解答に至るプロセスの理解を心掛けてください。

【学習支援室：第4学舎1号館1階】  
(システム理工学部入試主任 松本亮介教授)

## Attention 大学からの重要なお知らせ

### 2019年度秋学期 学年暦 試験期間や休業期間などスケジュールを把握し、計画的に学生生活を送ってください。

月	学部	大学院	専門職大学院	留学生別科
11月	●大学創立記念日(4日) ※授業日			●大学創立記念日(4日) ●日本語科目試験(21日~22日) ●日本語科目試験成績発表(27日)
12月	●冬季休業(25日~1月5日)			●冬季休業(26日~1月6日)
1月	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(20日) ●秋学期試験(23日~30日)	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(20日) ●秋学期試験(29日)	●授業再開(6日) ●秋学期授業終了(法務20日、臨床心理27日、会計28日) ●秋学期試験(法務21日~31日、臨床心理29日~31日)	●授業再開(7日) ●秋学期授業終了(28日) ●秋学期定期試験(29日~30日)
2月	●入学試験(1日~8日)			●秋学期成績発表(7日) ●日本語集中演習(12日~26日)
3月	●入学試験(3日~4日) ●卒業成績発表 ●在学生成績発表 ●在学生履修登録 ●卒業式(19日) ●春季休業(21日~31日) ●学年終・秋学期終了(31日)	●在学生成績発表 ●在学生履修登録 ●学位(修士・博士)記授与式(21日) ●卒業式(24日~31日) ●学年終・秋学期終了(31日)	●専門職学位課程修了者発表 ●在学生成績発表 ●在学生履修登録 ●学位(専門職学位)記授与式(21日) ●春季休業(24日~31日) ●学年終・秋学期終了(31日)	●日本語集中演習成績発表・修了成績発表(9日) ●秋学期修了式(13日) ●秋学期授業終了(21日~31日) ●学年終・秋学期終了(31日)

※詳細はインフォメーションシステム等で確認してください。



# 関大トピックス

## 春学期卒業式および学位（修士・専門職・博士）記授与式、秋学期入学式を挙

千里山キャンパスで9月19日、春学期卒業式および学位（修士・専門職・博士）記授与式、秋学期入学式を挙

行しました。学部卒業生178人、大学院博士課程前期課程修了生30人、専門職学位課程修了生9人、博士課程後期課程修了生11人、論文博士2人に卒業証書・学位記が授与され、芝井敬司学長から激励の式辞が贈られました。

また、秋学期入学生は、総合情報学部6人、文学研究科6人、東アジア文化研究科16人、理工学研究科2人、外国語教育学研究科1人、社会安全研究科1人で、新たな学びをスタートさせています。



秋学期入学式

## 留学生別科春学期修了式・秋学期入学式を挙

南千里国際プラザで9月10日、関西大学留学生別科の春学期修了式を挙

行しました。修了生20人には、国際部長の前田裕副学長から修了証書が授与されました。

また9月21日には、秋学期入学式を挙



秋学期入学式

## 陸上競技部の坂井隆一郎さんと田上陽菜さんが日本陸上競技選手権に

出場 体育会陸上競技部の坂井隆一郎さん(人間健康学部4年次生)と田上陽菜さん(文学部3年次生)が、6月27日～30日に福岡県で開催された第103回日本陸上競技選手権大会に出場しました。

日本学生陸上競技個人選手権男子100mで10秒12、学生歴代7位の好記録で学生王者となった坂井さんは、タレント揃いのなか決勝まで勝ち上がり、10秒31で大健闘の6位。女子三段跳で関西学生選手権2連覇中の田上さんは12位となりました。東京オリンピック出場を目指す2人の活躍が期待されます。



日本陸上競技選手権での坂井さん (写真中央、提供：永富慎也氏)



日本学生陸上競技個人選手権での田上さん (提供：関大スポーツ編集局)

## 関西大学応援団がオリジナル応援曲『カイザー』を

作成 『カイザー』を作成しました。

新応援曲を作曲したのは、プロ野球千葉ロッテマリーンズの応援団長という経歴を持ち、現在は東北楽天ゴールデンイーグルスの応援プロデューサーを手掛けているジントシオ氏で、大学の応援団に曲を提供することは今回が初めて。

関西の大学野球ではオリジナルの応援曲を取り入れているチームはなく、大学独自の応援ができていないと感じていた応援団員の森岡豪さん(社会学部3年次生)が、ジント氏に直接作曲を依頼し快諾を得たもの。2022年に創設100代を迎える伝統ある応援団として、森岡さんは「大学応援の新たな形を確立し、その伝統を次世代へと継承していきたい」と意気込んでいます。

※「誰でも、どこでも使える応援曲」として、希望団体には学内外を問わず楽譜を無償提供します(営利目的で楽曲を利用する場合等は除く)



新応援曲『カイザー』PV

関西大学公式YouTube チャンネル (右の2次元バーコードからアクセス可能)で視聴できます。



## 関大人

よもやまばなし

## 四方山話 ◆「困難な状況を楽しむ気持ち」 法文オフィス 小出 翔太



今年から、体育会空手道部の正式なコーチとなり指導者としてスタートを切りました。新米指導者として、選手たちと共に目標に向かって切磋琢磨しています。そんな私が、指導者として伝えていきたいことが、困難な状況を楽しむということです。

新入部員だった頃、周囲のレベルの高さから、結果が出ない時期がありました。そんな時、とある書籍で、困難を乗り越えるには楽しむことが大切だという言葉と出会い、「困難=辛いこと」ではなく「困難=自分が成長

する機会」と考えるようになりました。「自分の成長につながると思うと、困難に立ち向かうことも楽しくなり、何事にも全力で取り組みました。その結果、全国優勝することができ、その時の充実感は今も忘れられません。

学生の皆さんも目標を持ってさまざまなことに取り組まれていると思います。どんな目標でも、達成するまでには多くの困難があるでしょう。そんな時は、困難は自分が成長できる機会と捉え、前向きな気持ちで乗り越えてください。その先に素晴らしい景色が見えるはずですよ。

## 編集後記

大学での「SDGs」の取り組みが、新聞や雑誌等で報道されることが増えてきていますが、本学が「SDGs」の意識調査を行ったところ、「存在を知らない」「言葉聞いたことはあるが、意味は知らない」と回答した学生・教職員が68.6%という結果でした。本学ではSDGsプロジェクトを立ち上げ、大学として具体的にどう活動していくべきか、といったことが議論されています。この動きを大きく推進していくためには学生の皆さんの力が必要不可欠です。これから、どのような事業が推進されていくのか興味を持ち、一緒に行動していくためにも「SDGs」を重要なキーワードとして注目してほしいと思います。(広報課 木田勝也)



## 関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2019年10月1日

発行:関西大学広報委員会

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-1121(大代表)